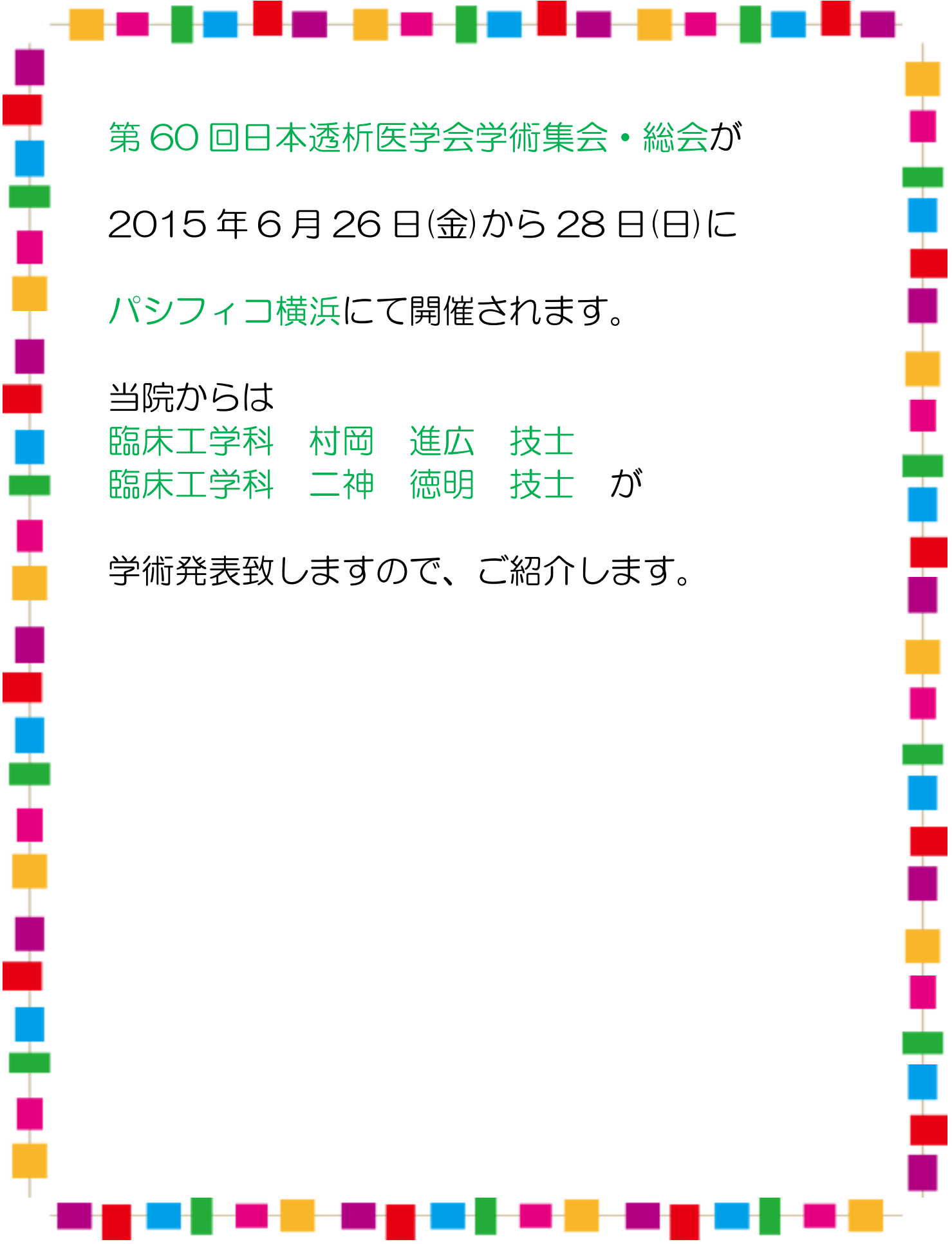




第 60 回日本透析医学会学術集会・総会が

2015 年 6 月 26 日(金)から 28 日(日)に

パシフィコ横浜にて開催されます。

当院からは

臨床工学科 村岡 進広 技士
臨床工学科 二神 徳明 技士 が

学術発表致しますので、ご紹介します。

ASD 合併透析患者を心エコー、カテーテル検査で評価し、HDF が有効であった 1 例

(医) 康仁会 西の京病院 臨床工学科 ¹⁾ 循環器内科 ²⁾ 透析センター ³⁾

村岡進広 ¹⁾ 松田澄人 ¹⁾ 明石清忠 ¹⁾ 野口幸 ¹⁾ 奥村啓之 ²⁾ 渡邊美智子 ³⁾
青木昭美 ³⁾ 吉岡伸夫 ³⁾ 高比康臣 ³⁾

【症例】55 歳男性。2007 年 6 月透析導入。2008 年 5 月の心エコー検査で ASD を指摘されるも経過観察。2013 年 9 月透析後に全身倦怠感が出現。心胸郭比 58.7% と心拡大とともに、9 月 19 日の心エコー検査で壁運動の低下 (EF32%) と壁肥厚を認めた。IVC は 13.8mm であった。ASD については、欠損口 4.9mm、Qp/Qs1.27 で明らかな右心系の拡大は認めなかった。さらに精査目的に心臓カテーテル検査を行うも有意狭窄はなかった。ASD による心不全は否定的ではあったが、循環動態を安定させるため 2014 年 2 月より HDF を導入した。導入 1 ヶ月頃より全身倦怠感は改善した。その後の心エコーでは EF47-53% と壁運動は改善し、心不全症状も認めていない。

【結語】透析患者の心不全の要因は多岐に渡るため、診断に難渋することが多い。本症例は、冠動脈、ASD の評価を迅速に行い、早期に HDF を導入することで心機能が改善したと考える。

セルローストリアセテート膜 FIX-210Seco の on-line HDF による
臨床性能評価

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 西大寺クリニック透析センター²⁾
二神徳明¹⁾ 大西順也¹⁾ 野口 幸¹⁾ 米澤麻理²⁾ 渡邊美智子²⁾ 青木昭美²⁾ 赤澤 愛²⁾
古岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【目的】FIX シリーズはセルローストリアセテートを素材としたヘモダイアフィルターである。今回、同社の高分子膜と比較検討した。

【対象・方法】維持透析患者 12 名を対象、FIX-210Seco と MFX-21Seco のクロスオーバーにより評価した。全例 on-line HDF とし、比較項目は UN、Cr、P、 β_2 -MG、 α_1 -MG の除去量、除去率、クリアスペース、Alb 漏出量と、TMP の経時的变化を検討した。

【結果】 β_2 -MG の除去率で MFX $80.7 \pm 3.6\%$ 、FIX $78.8 \pm 3.1\%$ ($p < 0.01$) であった。 α_1 -MG のクリアスペースで MFX $1.25 \pm 0.19\text{L}$ 、FIX $1.38 \pm 0.28\text{L}$ ($p < 0.05$) であった。ALB の漏出量は MFX $3.3 \pm 0.7\text{g/session}$ 、FIX $4.1 \pm 1.8\text{g/session}$ ($p < 0.05$) であった。TMP 変化率は、全ての時間において FIX が有意に低値となった ($p < 0.01$)。

【結語】FIX は TMP の経時的变化率が MFX より優れていることから、膜孔開存率が高く、 α_1 -MG 領域の大分子量物質の除去に膜の特性を持つヘモダイアフィルターの可能性がある。